

第 41 回滋賀県ヨシ群落保全審議会

日 時：令和 7 年(2025 年)12 月 22 日(月)

10:00~12:00

場 所：滋賀県大津合同庁舎 7-A 会議室

次 第

1 開 会

2 議 題

(1) ヨシ群落保全に係る現在の取組について (資料 1)

(2) ヨシ群落 info について (資料 2)

(3) その他

(配布資料)

資料 1	ヨシ群落保全に係る現在の取組について
資料 2 - 1	ヨシ群落 info について
資料 2 - 2	琵琶湖環境科学研究センターの研究について
参考資料	ヨシ群落保全基本計画の概要
参考資料	第 19 回西の湖ヨシ灯り展の報告

滋賀県ヨシ群落保全審議会委員名簿

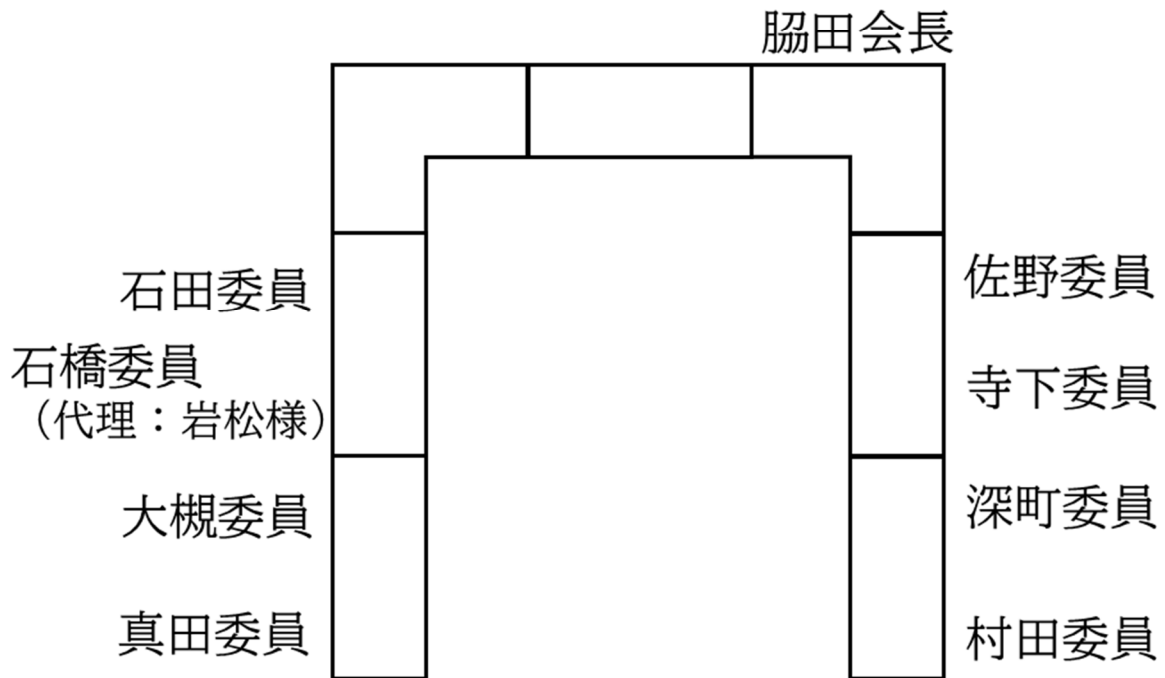
※五十音順、敬称略

	氏名	主な職	備考
1	石田 かよ	公募委員	
2	石橋 一恭	独立行政法人水資源機構 琵琶湖総合管理所長	代理： 岩松 裕二
3	大槻 達郎	琵琶湖博物館 専門学芸員	
4	岡田 佳美	ヨシでびわ湖を守るネットワーク会員 (株式会社コクヨ工業滋賀 自立事業戦略グループ 次長)	リモート出席
5	小西 理	近江八幡市長	欠席
6	真田 陽子	西の湖ヨシ灯り展実行委員会 委員	
7	佐野 高典	滋賀県漁業協同組合連合会 代表理事会長	
8	柴山 慶行	国土交通省近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所長	リモート出席
9	田中 久美子	針江生水の郷委員会 委員	欠席
10	寺下 博之	大津市自治連合会	
11	永坂 正夫	金沢星稜大学人間科学部 教授	リモート出席
12	西本 直子	公募委員	欠席
13	深町 加津枝	京都大学大学院地球環境学堂 准教授	
14	村田 章	日本野鳥の会滋賀 副代表	
15	脇田 健一	龍谷大学社会学部 教授	

第41回滋賀県ヨシ群落保全審議会
令和7年12月22日

委員配席図

スクリーン



事務局

リモート出席
岡田委員
柴山委員
永坂委員

報道、傍聴等

ヨシ群落保全に係る現在の取組について

滋賀県 琵琶湖環境部 琵琶湖保全再生課

ヨシ群落保全基本計画(R3.12改定)概要

○ ヨシ群落保全基本計画の策定

条例第9条第1項の規定に基づき策定

(現行計画の計画期間：令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度))

<基本方針>

- (1) 多様な働きを持つヨシ群落を地域の特性に応じて、健全な育成を図る
- (2) 事業者やボランティア等との関わりによる取組を広げ、地域とともに保全活動を行っていく
- (3) 「守る・育てる・活用する」の循環の構築により、持続的な取組を進める

<保全目標>

ヨシ群落の質的な保全・再生を目指し、ヨシ群落の健全な育成を図る

- ・ 良好なヨシ群落が現存している場所においてはその状態を維持
- ・ 衰退した場所においては再生し、地域の特性に応じた維持管理や利用を推進

ヨシ群落保全基本計画(R3.12改定)概要

守る

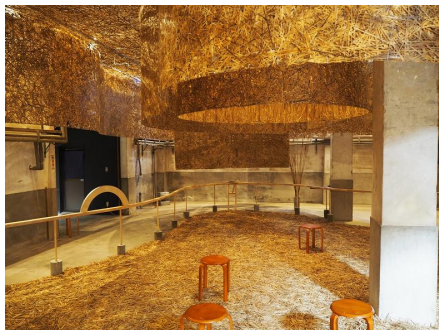
滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例



ヨシ布



歯ブラシ「美WAKO」



ヨシstrandボード

活用する

水草等対策技術開発支援事業

育てる



補植工事



造成工事



ボランティア・企業による保全活動

令和6年度の実施状況について

(1) 守る

滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例（平成4年3月施行）

- この条例は、ヨシ群落を積極的に保全し、その多様な機能を発揮させることにより、琵琶湖の環境保全を図り、県民の生活環境の向上に寄与することを目的とするもの
- ⇒ 県、県民および事業者の責務、ヨシ群落保全区域の設定、計画策定義務などを規定

<条例 前文の一部抜粋>

ヨシ群落の保全は、琵琶湖を代表する自然を守り、水辺の生態系の保全を図るのみならず、**私たちの心の支えである湖国の風土や文化を守る大きな意義**を持っている。

私たちは、今後も、それぞれの役割を一層果たすことに努力し、一体となって琵琶湖を守り、**美しい琵琶湖を次代に引き継ぐための新たな取組の出発点**として、滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例を制定する。

令和6年度の実施状況について

(1) 守る



○ヨシ群落保全区域では、工作物の新築などの**行為が制限される（事前の申請や届出が必要）**

○県以外の者によるヨシ群落保全活動の把握 12件

<保全区域の種類など>

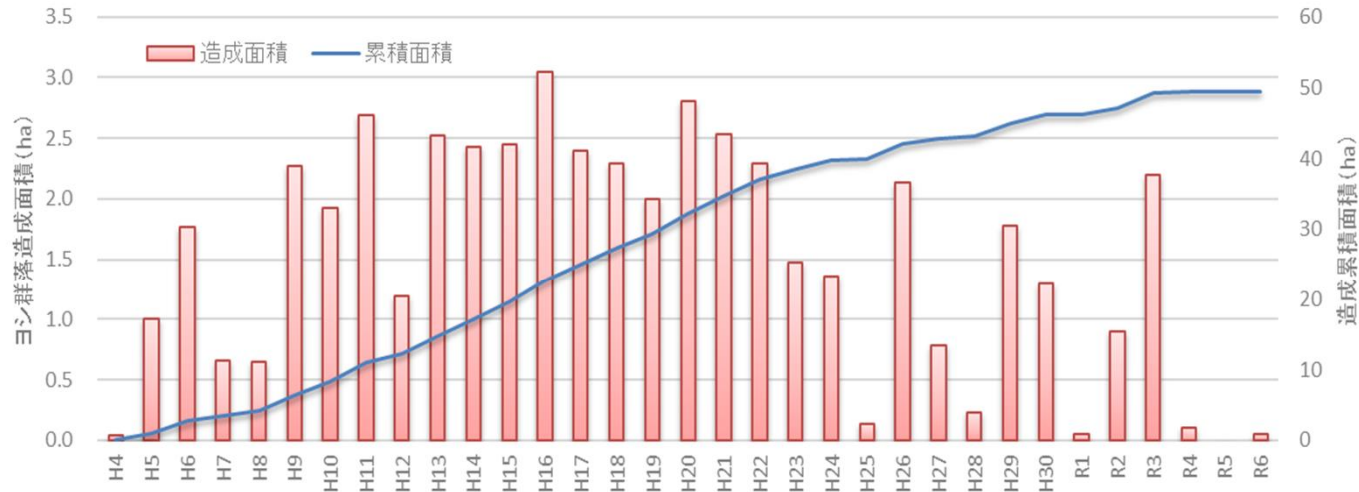
区分	ヨシ群落の状況（設定要件）	上段：個所数 下段：面積
保護地区	◎奥行きが概ね100m以上ある安定したヨシ群落（昭和30年代と比べて後退がなく安定している群落）	3箇所 78.8ha
保全地域	◎ 奥行きが概ね30m以上～100m未満のヨシ群落	29箇所 650.2ha
普通地域	◎ 奥行きが概ね30m未満であって次のようなヨシ群落 ・小規模のヨシ群落 ・まばらな状況のヨシ群落 ・幅の狭いヨシ群落	20箇所 103.6ha

図 ヨシ群落保全区域の概略図

保全区域の個所数などの**合計 52箇所 832.6ha**

令和6年度の実施状況について (2) 育てる

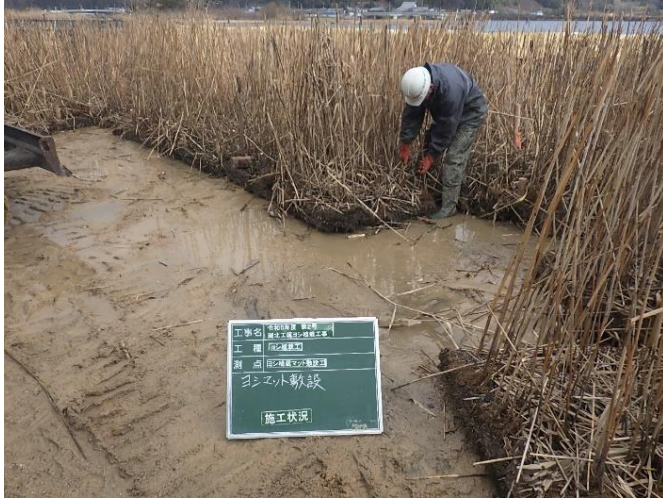
○造成面積



ヨシ群落造成面積の推移

琵琶湖保全再生課
ヨシ群落造成工事
(長浜市平方町地先)

水産課
ヨシ帯補植工事
(長浜市西浅井町岩熊地先)



補植工(ヨシマット敷設) 施工中



施工後



施工後状況(R7.8.28)

令和6年度の実施状況について (2) 育てる

琵琶湖保全再生課 ヨシ群落造成工事



R6施工後状況(R7.11.19)



令和6年度の実施状況について

(2) 育てる

○刈取面積(令和6年度)

県事業実施面積	: 0.47ha
自治振興交付金※1による支援	: 3.77ha
ヨシ群落保全活動奨励金※2による支援	: 1.35ha
その他の団体等による実施面積	: 0.46ha
計	6.05ha



- ※1 市町や自治会などの住民組織がヨシ群落保全区域内で実施する事業に対して、市町に交付するもの。令和6年度：大津市、高島市
- ※2 株式会社伊藤園では平成20年から琵琶湖の総合保全を目的として「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーンを実施、売上げ金の一部を本県に御寄附いただいている。この寄附金の一部を活用して、ボランティア団体等が県内で行うヨシ群落保全活動に対して支援を行うもの。
令和6年度：9団体

現在の取組について

(2) 育てる

○ ヨシ刈り活動によるCO₂回収量の算定

ヨシ群落保全の効果を客観的な数値により「見える化」するために、令和3年度、ヨシ刈り活動によるCO₂回収量の算定ツールを開発
滋賀県ホームページで公開している

(県HP)

ヨシ刈り活動によるCO₂回収量の算定について 2022年10月7日

[Tweet](#)


ヨシ群落保全条例では、ヨシ群落を「守る」、「育てる」、「活用する」により、保全を推進しており、ボランティアを始め多くの皆様にヨシの保全活動に参加していただいています。

ヨシ群落の保全活動による効果は、生態系保全や水質浄化、環境学習などがありますが、客観的な数値による「見える化」が望まれていました。滋賀県では、琵琶湖博物館や保全に取り組む企業等と共に、冬季のヨシ地上部現存量調査を実施し、ヨシ刈り活動とそのヨシを利用することによるCO₂回収量の簡易算定方法を開発しました。

この算定方法を利用し、ヨシ刈り活動によるCO₂ネットゼロ社会づくりへの貢献が可視化されことにより、企業やボランティアによるヨシ保全活動がより一層広がっていくことを期待しています。

※令和4年10月7日に算定ツールの改定を行いました。

ヨシ刈り活動によるCO₂回収量の算定ツール



刈り取りヨシのCO₂回収量の算定ツール (令和4年10月7日改定) (Excel2007~:22 K B)

算定ツール(Excel)
ヨシ刈りによるCO₂回収量の算定ツール (令和4年10月7日改定)

出力値 ※A(ヨシ刈りによるCO₂回収量) = B(刈取面積) × C(炭素量CO₂換算値)

ヨシ刈りによるCO ₂ 回収量 A	3.25 (ton-CO ₂)	出力値
刈取面積(m ²) B	2,405	入力値
ヨシ高さ(cm)	300	入力値
		炭素量CO ₂ 換算値 C (左記入力値の下表読取) 13.53 ton/ha

高さ(cm)	200 (190~209)	220 (210~229)	240 (230~249)	260 (250~269)	280 (270~289)	300 (290~309)	320 (310~329)	340 (330~349)	360 (350~369)	380 (370~389)	400 (390~409)	420 (410~429)
乾燥重量 (群落高法推定) (g/m ²)	450	520	590	660	740	820	910	990	1080	1180	1270	1370
炭素量 (ton/ha)	2.03	2.34	2.66	2.97	3.33	3.69	4.10	4.46	4.86	5.31	5.72	6.17
炭素量CO ₂ 換算値 (ton-CO ₂ /ha)	7.43	8.58	9.74	10.89	12.21	13.53	15.02	16.34	17.82	19.47	20.96	22.61

計算式 炭素量CO₂換算値(ton-CO₂) = ヨシ乾燥重量(g/m²) × 炭素含有率(0.45) × CO₂換算係数(44/12)

※大気中からのCO₂回収は、刈取したヨシを長期的に利用することが前提です

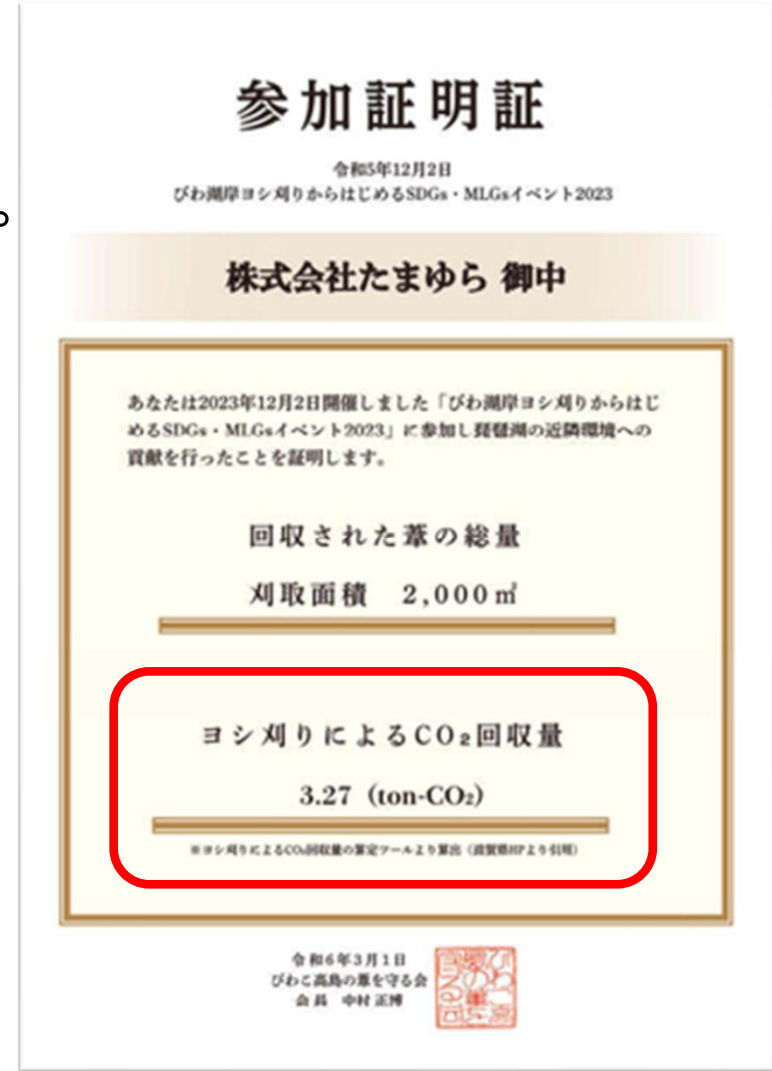
現在の取組について (2) 育てる

○ ヨシ刈り活動によるCO₂回収量の算定ツールの活用事例

(証明書イメージ)

高島市でのヨシ刈り活動(※)にて、
びわこ高島の葦を守る会から参加企業・団体(希望者のみ)に
発行する「参加証明書」に「ヨシ刈りによるCO₂回収量」を明記。

※主催:びわこ高島の葦を守る会
協力:株式会社TAMAYURA



令和6年度の実施状況について

(2) 育てる

○普及啓発活動(R6年度)

小学校での出前講座:16校

保全活動指導:8回



室内授業



ヨシ苗づくり



ヨシ刈り・収穫

令和6年度の実施状況について

(3) 活用する

○水草等対策技術開発支援事業(令和4年度～)

かつて、ヨシはあらゆる生活の場で活用されていたが、生活様式の変化により需要は減少。

新たな利用・活用を進めるため、ヨシ製品の開発等に取り組む事業者を支援。

○開発された製品①

歯ブラシ『美WAKO』(株式会社N&S)(R4年度に支援)

- ・柄は琵琶湖産ヨシ含有のペレットやトウモロコシ樹脂、ブラシは植物由来原料100%のヒマシ樹脂を使用。
- ・パッケージはヨシ紙を、袋はヨシ布を使用。
- ・歯科医師が何度も試行錯誤した上で完成した、機能的な歯ブラシ。
- ・令和6年5月から本格販売を開始。企業等の記念品にも採用された。



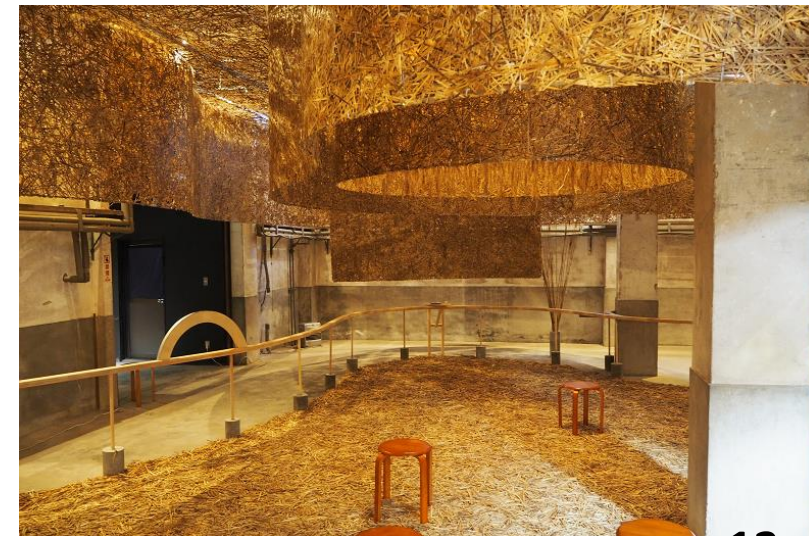
令和6年度の実施状況について

(3) 活用する

○開発された製品②

ヨシストランドボード(株式会社エスウッド)(R4・R5年度に支援)

- ・西の湖(近江八幡市)周辺のヨシを活用した建材。
- ・家具や内装材をはじめ、コースターなどの雑貨やパネルのような展示用品等様々な用途に活用できる。
- ・滋賀県立大学等と連携して開発。
- ・令和6年度は、販売や試作のため西の湖周辺のヨシを約600キロ活用。
- ・令和6年12月に事業化。



(3) 活用する

○これらの製品が、「ビワコプロダクツ」に選定

歯ブラシ『美WAKO』 (R6年度)

ヨシストランドボード (R7年度) 特定非営利活動法人まるよしと事業体申請



ビワコプロダクツ
Lake Biwa Products

○「ビワコプロダクツ」とは（環境政策課事業）

滋賀の水環境保全に係る優れた技術やコンセプトに裏打ちされた製品等を選定するもの。

過去の選定製品（ヨシ関係）

・ 株式会社たまゆら (R4年度)

高麻株式会社と事業体申請

「TAMAYURA SUSTAINABLE WORKS」



ヨシ繊維を用いたユニフォーム等

→2025年開催大阪・関西万博の運営スタッフユニフォームの帽子にヨシ布を使用

・ ヨシネットワーク (R5年度)

西川嘉右衛門商店と事業体申請

「びわ湖ヨシ紙」およびヨシ保全・環境学習支援

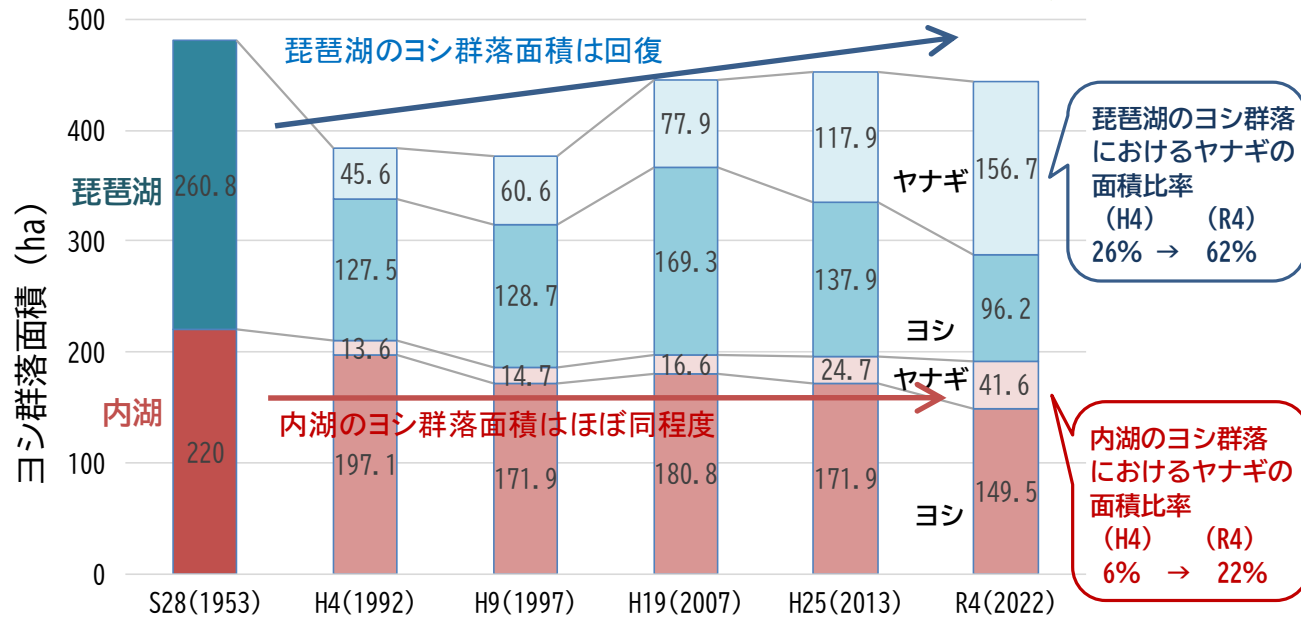


ヨシを用いた紙製品等

令和6年度の実施状況について

(4) 令和6年度ヨシ群落現況調査の結果

(調査概要) 令和4年度撮影の空中写真を判読し、湖辺植生の現況やヨシ群落面積を把握する



※昭和28年度については、ヤナギとヨシの区分を行っていない。

出典：「昭和28年度総合開発調査 琵琶湖水位低下対策（水産生物）調査報告書」（滋賀県水産試験場）
 「ヨシ群落現存量等把握調査」（平成4年3月 滋賀県環境室）
 「ヨシ群落現存量等把握調査」（平成10年3月 滋賀県自然保護課）
 「ヨシ群落現存量等把握調査」（平成20年12月 滋賀県自然環境保全課）
 「ヨシ群落現況調査」（平成30年2月 滋賀県琵琶湖政策課）
 「ヨシ群落現況調査」（令和7年2月 滋賀県琵琶湖保全再生課）

- ヨシ群落面積の回復、ヤナギ等の面積比率が増加
- 侵略的外来水生植物の侵入
- 生活様式の変化による地域の関わりの減少 など



ヤナギ等によりヨシの生育が阻害されているヨシ群落



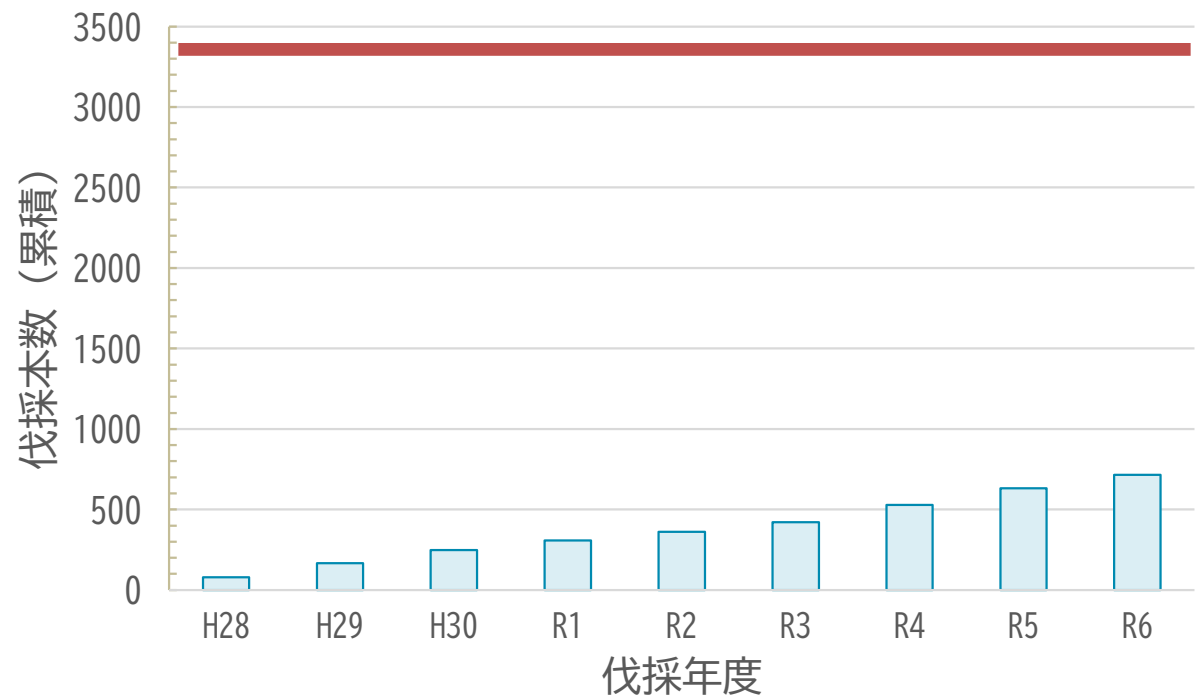
侵略的外来水生植物（オオバナミズキンバイ等）が侵入しているヨシ群落

令和6年度の実施状況について

(5) ヤナギ等の伐採

ヤナギ等が巨木化すると、ヨシの生育が阻害される
→巨木化したヤナギ等を 伐採する必要がある(平成28年度時点伐採対象:約3400本以上)

○ヤナギ伐採状況(令和6年度末時点)



長浜市 薪配布

令和6年度は84本のヤナギ等を伐採。
3月に配布イベントを開催し、一般配布した。

現在の取組について

(5) ヤナギ等の伐採

<現状と課題>

- ・伐採が必要なヤナギ等約3,400本に対して伐採ペースは限定的。(約100本/年)
- ・自然の流れとして、ヨシ主体群落→混成群落→ヤナギ主体群落に移り変わる
 - 地域のボランティア団体等の協力を得ながら、伐採ペースを加速させることが必要。伐採したヤナギの有効活用も必要。
 - さらに、伐採したヤナギ等は、切り株から芽吹いて若返る(萌芽という)ことがあり、確実に枯死させるため、これを阻止する必要がある。

現在の取組について

(5) ヤナギ等の伐採

<現状と課題>

伐採ペースを加速させることが必要

<対策>

- ・R7年度予算にて、ヤナギ伐採に係る委託費を増額し、伐採本数を増やした。
(参考)R6年度 84本 → R7年度 118本
- ・R7年度予算にて、ボランティア団体等による保全活動への奨励金事業にて、ヤナギ伐採に係る経費を見直した。

令和6年度要領	番号	対象となる活動	対象となる活動の要件および奨励額			
			内容	要件等	奨励額	上限
(3)		ヨシの生育の支障となっているヤナギ等の伐採活動	ヤナギ等の伐採	胸高直径	定額	30万円
				10～15cm未満	1,000円/本	
				15～20cm未満	2,000円/本	
				20～25cm未満	3,000円/本	
				25～30cm未満	5,000円/本	
30cm以上	10,000円/本					

令和7年度改正要領	番号	対象となる活動	対象となる活動の要件および奨励額			
			内容	要件等	奨励額	上限
(3)		ヨシの生育の支障となっているヤナギ等の伐採活動	ヤナギ等の伐採	地際から30cm高の直径	定額	30万円
				10～20cm未満	7,000円/本	
				20～30cm未満	16,000円/本	
				30～45cm未満	28,000円/本	
				45cm以上	40,000円/本	

現在の取組について

(5) ヤナギ等の伐採

<現状と課題>

伐採したヤナギ等は、切り株から芽吹いて若返る(萌芽という)ことがあるが、これまで対策がされてこなかった。

<対策>

- ・防草シートを用いて、光を遮断することにより、萌芽を阻害する 等

【例】R7.1月伐採後のヤナギ

〈R7.6月〉萌芽



防草シートを
巻き付ける



5か月経過



〈R7.11月〉枯死



令和6年度の実施状況について

(6) 令和6年度ヨシ群落保全活動団体調査

<調査概要>

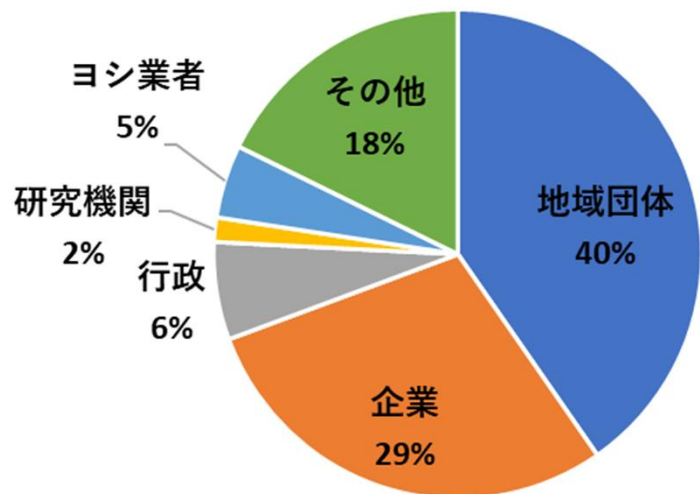
ヨシ群落infoの掲載情報とするため、ヨシ群落保全等の活動をしている団体について調査

<調査方法>

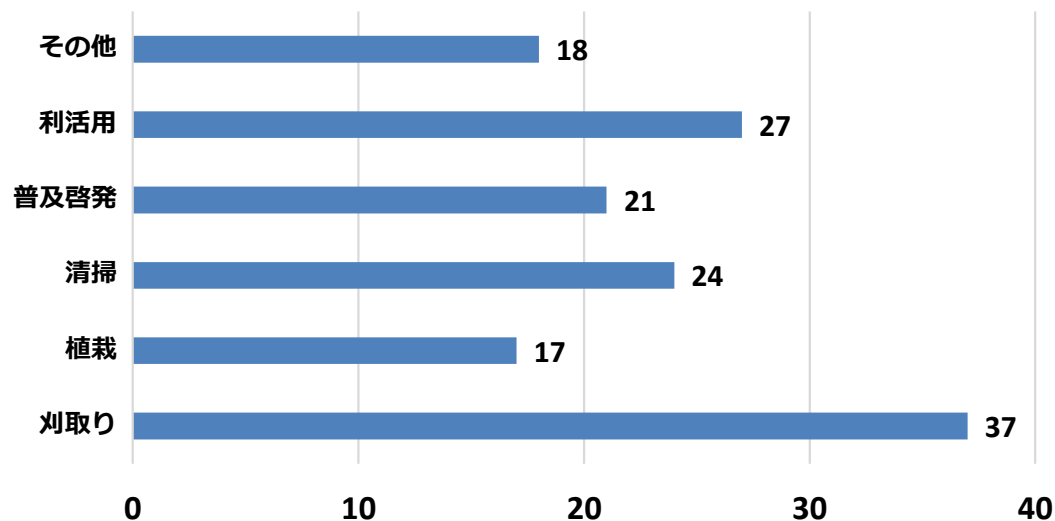
- ・県や(公財)淡海環境保全財団が把握していた団体、WEB検索・新聞記事・電話・訪問等による情報をもとに、「調査対象リスト」を作成
- ・リストに掲載された団体から、文書等により活動状況、ヨシ保全への思い、課題等を聞き取った(回答:62団体/91団体) ※情報の公開については今後調整

<調査結果>

◆団体の種類



◆活動内容(団体数)

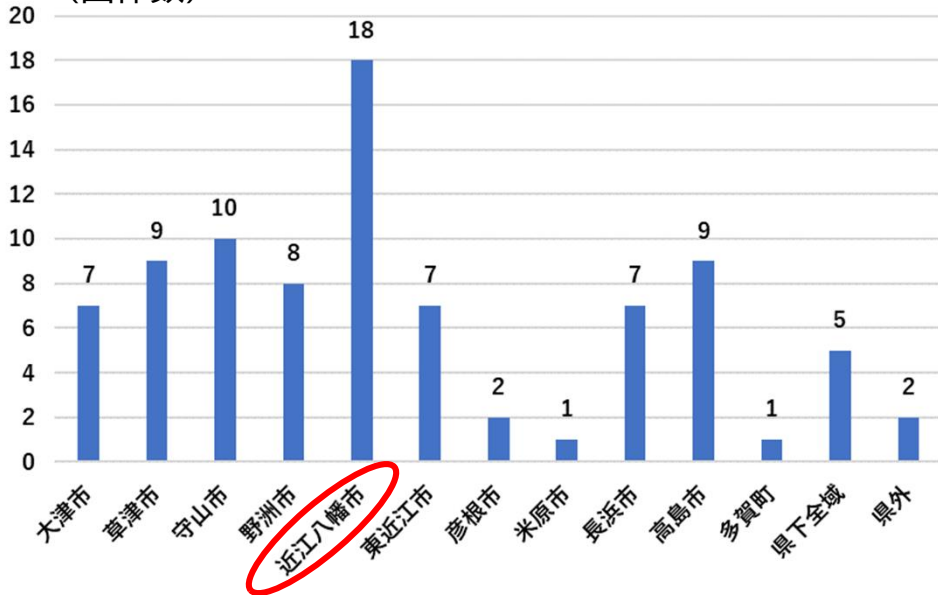


令和6年度の実施状況について

(6) 令和6年度ヨシ群落保全活動団体調査

◆主な活動場所

(団体数)



◆ヨシ群落保全への思い(抜粋)

- ・地域に愛着を持ってもらうため、地域の特色ある資源であるヨシの文化、伝統を次の世代につなぐための支援をしていきたい。
- ・母なる琵琶湖を守る心を育むイベントとして、ヨシ松明の炎にその思いを込める。
- ・地域と連携して、ヨシの再生および維持管理を進めていきたい。
- ・在来魚の産卵・初期成長の場として健全な状態に戻したい。
- ・ヨシ製品の販路支援を行い、ヨシ産業・地域経済の活性化に貢献したい。
- ・滋賀県で操業している企業として『琵琶湖保全』、『生物多様性保全』、『環境美化』につながるものの一つとして積極的に活動したい。

◆ヨシ群落保全活動における課題(抜粋)

- ・人手不足、活動メンバーの高齢化
- ・イベントへ出役する顔ぶれが毎回同じ
- ・地域住民の無関心
- ・ヨシ紙や新しいヨシ活用の認知度が低く、コストがかかる。
- ・実施イベントのマンネリ化
- ・活動費の創出(会費が大部分)
- ・どのように活動を伝え、協力を得て継続していくか。
- ・ヨシの保全や利用に取り組む多様な主体の連携体制の構築
- ・ヨシ紙すき体験やワークショップを学校開催してくれる企業団体があるのかわからない。
- ・ヨシ植栽の時期の調整や、琵琶湖の水位変動の考慮、土壌基盤が流出しない環境整備が難しい。
- ・植栽してもヨシが群生しない。ヨシ苗が波で流されて定着しない。

様々な連携・発信

以下の取組により、ヨシ群落の多様な機能や保全の意義について発信した。

○県民サロンでのヨシを素材に活用した衣装展示 (2025. 4/3~4/25)

琵琶湖岸のヨシを活用した「大阪・関西万博」スタッフユニフォームや「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」のプラカードの帽子を県民サロンで展示。



○「滋賀魅力体験ウィーク」～Discover Shiga, Go Lake Biwa～におけるブース出展 (2025. 8/27~8/29)

ヨシストラップづくりワークショップやヨシ帯の生態系を再現した水槽の展示

3日間でのべ27,900人が会場に訪れ、うち363人がワークショップを体験。ヨシ群落やMLGsに関心をよせた。特に大阪府等、関西地域からの来場者が多く、「ヨシ群落が様々な生き物の住処になっていることがよくわかった」「ヨシ群落を訪れてみたい」等の感想をいただいた。



ヨシのワークショップ



水槽の湖魚を観察



ヨシに住む生き物たちを探す(模型)

様々な連携・発信

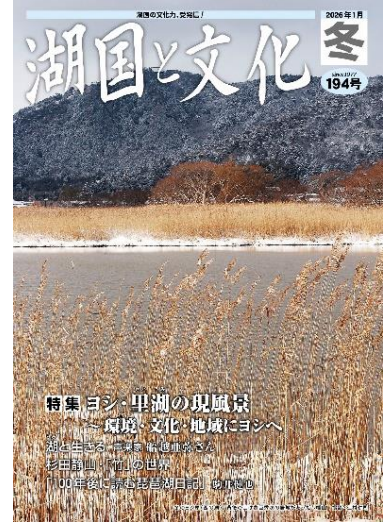
ヨシ群落の保全や発信について、様々な企業・団体等と連携した。

○琵琶湖博物館のドローン調査に同行 (R7. 1. 25)

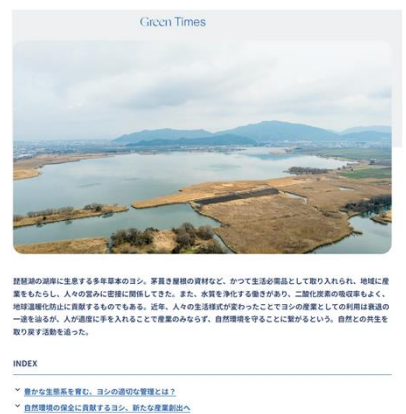


○『湖国と文化』冬号に掲載予定 (R8. 1月)

～ヨシ特集～
「ヨシ群落保全条例と
その後の歩み」



○チューリッヒ保険のウェブマガジンに
ヨシに関する記事が掲載 (R7. 4月)



○おおつ環境フォーラムの講座にて
琵琶湖博物館と共にヨシ群落について説明
(R7. 9. 27)



NPO法人まるよしを紹介、
記事を提供。

様々な連携・発信

OMLGs Mother Lake Goals 変えよう、あなたと私から

マザーレイクゴールズ（MLGs）とは、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会の実現を目指す目標（ゴール）であり、「琵琶湖版のSDGs」
ヨシ群落を保全することは以下のゴールに寄与している。



2 ヨシ群落保全の支援活動
ヨシ群落や湖底の砂地など、水産資源の基盤となる環境を整備

3 ヨシ群落の保全活動（ヨシ刈り等）に参加
ヨシを使った製品を開発
ヨシ群落をはじめとする多様な生き物の生息環境を保全

4 ヨシ群落の保全活動（ヨシ刈り等）に参加
ヨシ製品を積極的に利用
ヨシ群落刈取等の自然湖岸を保全

6 森林やヨシ群落の保全活動に参加

12 ヨシを使った製品を使用
ヨシ群落の保全活動（ヨシ刈り等）に参加
ヨシのすだれや衝立を利用

13 琵琶湖の清掃活動やヨシ刈りなど、多様な主体が集まる環境保全活動に参加

ヨシ群落infoについて

滋賀県 琵琶湖環境部 琵琶湖保全再生課

○作成の目的

- ・令和3年度にヨシ群落保全基本計画を改定、量的回復から質的向上へ（造成から維持管理へ）
- ・維持管理の担い手であるヨシ群落保全活動団体の現状と課題
地域の保全活動の担い手不足
企業等（他所の人）のヨシ群落保全活動への関心の高まり

基本方針：地域住民の意思を尊重しつつ、事業者やボランティア等との関わりによる取組を広げる

- ・取組を広げるうえでの課題
どこのヨシがどんな状況か、管理されているのか等の基本的な情報が整理されていない

目的：情報を整理し発信することで、
地域と他所の人を繋げるきっかけづくりをする

ヨシ群落infoについて

○経過および今後の予定

資料2-1

令和4～6年度	作成の方向性、内容検討
令和6年度	ヨシ群落保全活動に関する団体調査 ヨシ群落現況調査
令和7年度	関係団体等との意見交換会（12/19実施） 掲載情報の整理 運用開始に向けた実務検討（システム関係等）
令和8年度	運用開始 ヨシ群落info展開のための意見交換および発信

○本日の主なご報告事項

(1) 公開イメージ

「生物多様性しがマップ」の活用 ヨシ群落infoの構成

【昨年度からの変更点】

- ・「googleマイマップ」の活用→「生物多様性しがマップ」の活用
- ・掲載する情報の構成を見直し

(2) ヨシ群落の健全性について

【昨年度からの変更点】

- ・琵琶湖環境科学研究センターの研究をふまえて指標について検討

(3) 公開後の展開について

○「生物多様性しがマップ」の活用

「生物多様性しがマップ」とは
生物多様性等に関する様々な情報がマップ上で確認できるシステム。令和4年から運用されている。

(例)「生物多様性しがマップ」内 外来魚回収ボックスのマップ



「生物多様性しがマップ」リンク



○「生物多様性しがマップ」に掲載するメリット

情報の窓口を一本化することで、ユーザーにとっての利便性が向上

◆現在の「生物多様性しがマップ」の掲載項目

The screenshot shows the 'Biodiversity Siga Map' website interface. At the top, there are filter tabs for 'すべて' (All), '野生生物・狩猟' (Wildlife/Hunting), '自然公園' (Natural Parks), and '琵琶湖' (Biwa Lake). Below the filters, there are toggle options for 'リスト表示' (List View) and 'グリッド表示' (Grid View). The main content area displays several category cards, each with a representative image and a list of sub-items:

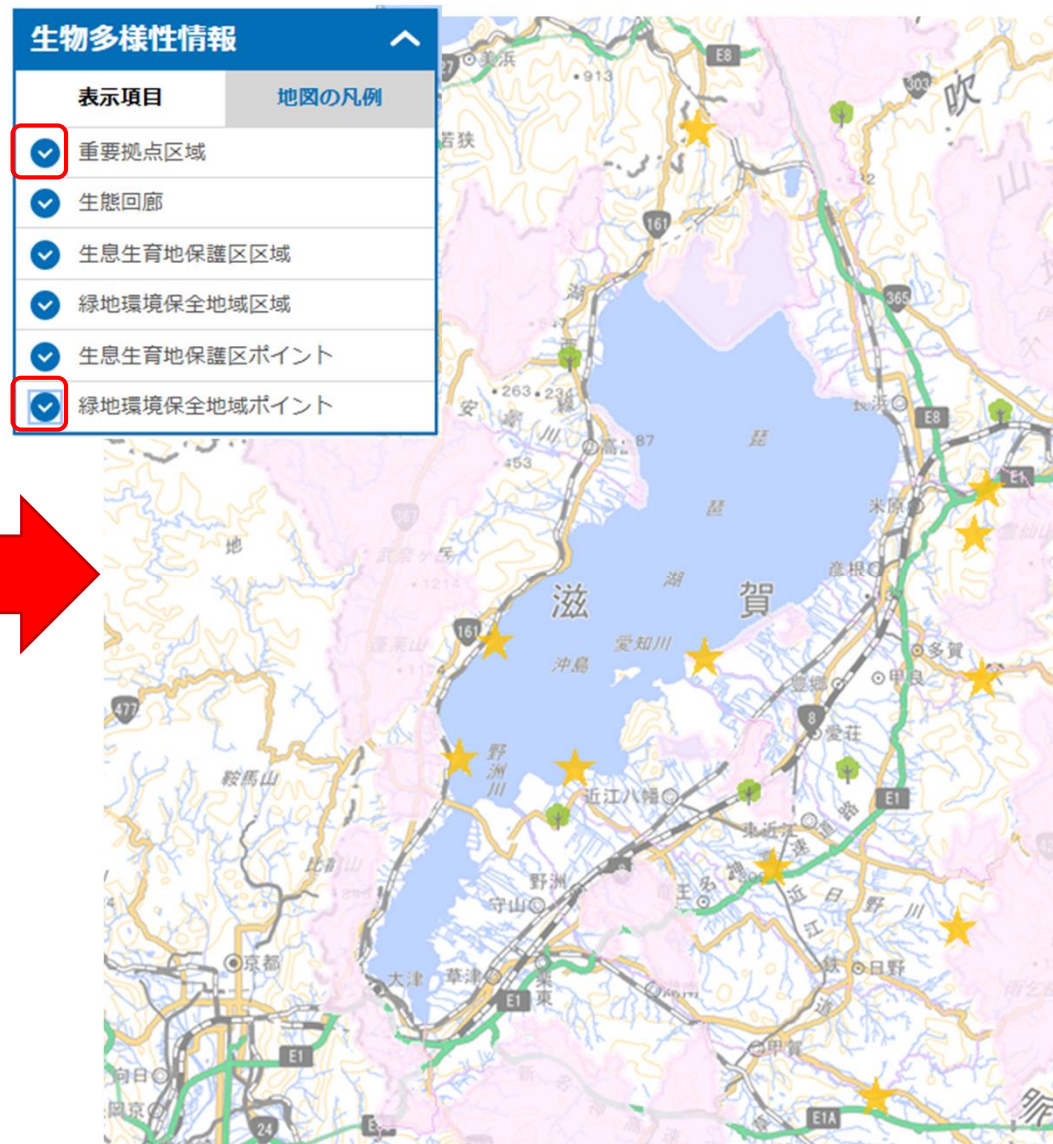
- ハンターマップ** (Hunter Map): Includes items like '県境データ', '国有林及び官行造林地', '自然公園法による特別保護区', '鳥獣保護区', '特別保護地区', '特定猟具利用禁止区域 (銃器)', '特定猟具利用禁止区域 (わな・銃器)', '鉛散弾規制区域', '猟区', and '県鳥獣行政機関・国有林連絡事務所 など...'. Updated: 2024/11/01更新.
- 生物多様性情報** (Biodiversity Information): Includes '重要拠点区域', '生態回廊', '生息生育地保護区区域', '緑地環境保全地域区域', '生息生育地保護区ポイント', and '緑地環境保全地域ポイント'. Updated: 2023/04/03更新.
- 自然公園** (Natural Parks): Includes '区域線', '琵琶湖国定公園、朽木・葛川県立自然公園', '鈴鹿国定公園、三上・田上・信楽県立自然公園、湖東県立自然公園', '区域凡例文字', and '区域凡例枠'. Updated: 2022/05/31更新.
- 外来魚回収ボックス** (Invasive Fish Collection Boxes): Includes '外来魚回収ボックス・いけす'. Updated: 2025/03/10更新.
- 航行規制水域** (Navigation Restricted Waters): Includes '航行規制水域'. Updated: 2024/03/05更新.
- ヨシ群落保全区域** (Reed Community Conservation Areas): Includes 'ヨシ群落保全区域'. Updated: 2024/03/27更新.

The 'ヨシ群落保全区域' card is highlighted with a red border in the original image.

ヨシ条例における保全区域が
すでに掲載されている

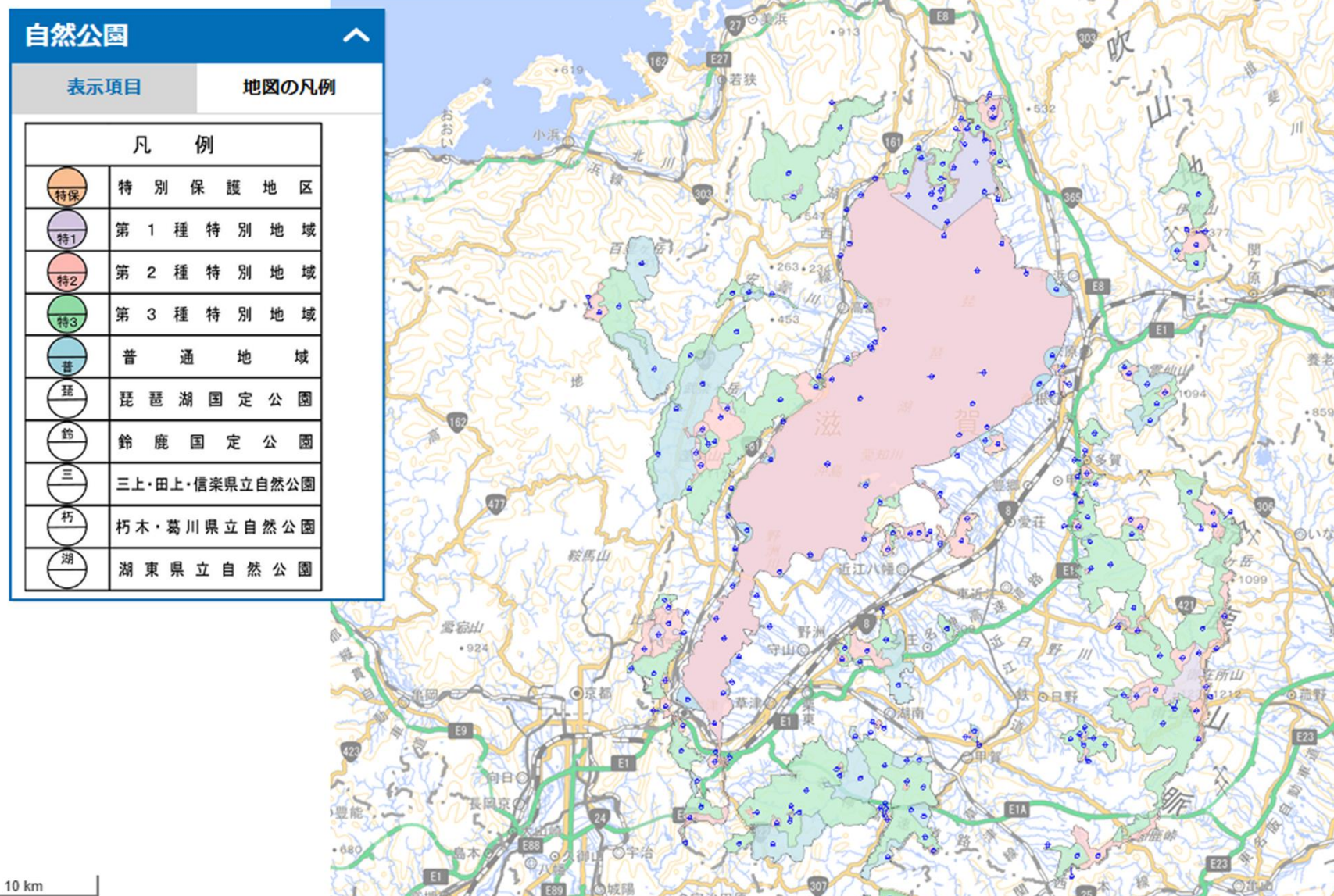
(1) 公開イメージ

○「生物多様性しがマップ」の機能①
チェックボックスで情報を重ねられる



○「生物多様性しがマップ」の機能②

GISデータの取り込みが可能



10 km

○「生物多様性しがマップ」の機能③

エリア・ポイントごとに情報を表示できる



○「生物多様性しがマップ」の機能④

誰でも簡単に作画・計測が可能 → ヨシ群落保全活動をする際にも活用できる

面積

×
面積 : 7493.00㎡
周長 : 356m

位置

×
緯度 : 35.018191
経度 : 135.914775
UTM座標 : 53SNU83467544
住所 : 日本、滋賀県草津市
標高 : 84m
削除

文字や記号を貼りつけ

ヨシ刈り場所

●月×日 10:00集合

さらに、
二次元コード・リンク化
印刷機能もあり

(1) 公開イメージ

資料2-1

○「ヨシ群落情報」の掲載イメージ

「生物多様性しがマップ」トップページのイメージ

絞り込み **すべて** 野生生物・狩猟 自然公園 琵琶湖

リスト表示 グリッド表示

- ハンターマップ** >
県境データ
国有林及び官行造林地
自然公園法による特別保護区
鳥獣保護区
特別保護地区
特定猟具利用禁止区域（銃器）
特定猟具利用禁止区域（わな・銃器）
鉛散弾規制区域
猟区
県鳥獣行政機関・国有林連絡事務所
など…
2024/11/01更新
- 生物多様性情報** >
重要拠点区域
生態回廊
生息生育地保護区区域
緑地環境保全地域区域
生息生育地保護区ポイント
緑地環境保全地域ポイント
2023/04/03更新
- 自然公園** >
区域線
琵琶湖国定公園、朽木・葛川県立自然公園
鈴鹿国定公園、三上・田上・信楽県立自然公園、湖東県立自然公園
区域凡例文字
区域凡例枠
表示中
2022/05/31更新
- 外来魚回収ボックス** >
外来魚回収ボックス・いけす
2025/03/10更新
- 航行規制水域** >
航行規制水域
2024/03/05更新
- ヨシ群落保全区域** >
ヨシ群落保全区域
2024/03/27更新
- ヨシ群落情報** >
ヨシ条例に基づく保全区域
ヨシ群落の現況調査（令和4年度）
ヨシ群落の地点調査
ヨシ群落保全活動の情報

すでに掲載されている保全区域情報を統合

○「ヨシ群落情報」の構成イメージ

① ヨシ条例に基づく保全区域

→保護地区、保全地域、普通地域を面で表示

② ヨシ群落の現況調査(令和4年度)

→令和4年度の航空写真を用いた調査結果を面で表示

③ ヨシ群落の地点調査

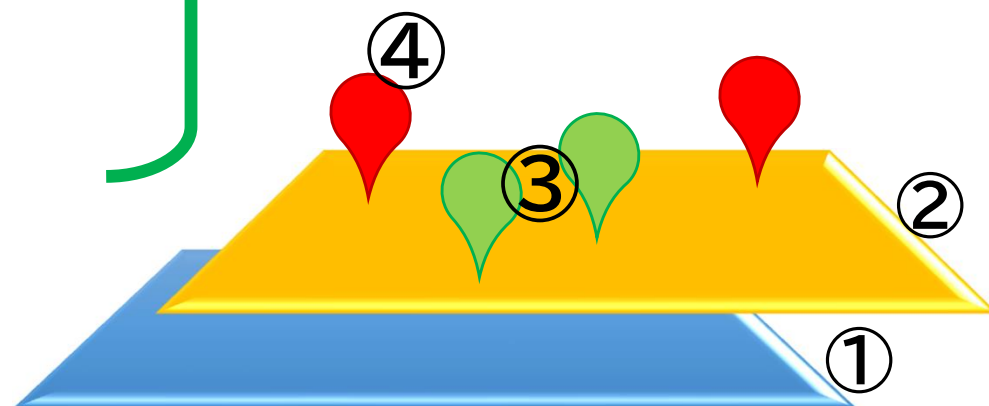
→群落ごとの基本情報を点で表示

④ ヨシ群落保全活動の情報

→ヨシ群落関係団体の情報を点で表示

すでに掲載されている

「ヨシ群落info」



(1) 公開イメージ

資料2-1

【階層①】ヨシ条例に基づく保全区域

ヨシ群落情報

- ✓ ヨシ条例に基づく保全区域
- ヨシ群落の現況調査（令和4年度）
- ヨシ群落の地点調査
- ヨシ群落保全活動の情報



表示したい内容をクリック

4種類の情報を好きなように
重ね合わせて閲覧できる

	保護地区
	保全地域
	普通地域



(1) 公開イメージ

	ヨシ
	ヤナギ

【階層②】ヨシ群落の現況調査(令和4年度)

ヨシ群落情報

- ヨシ条例に基づく保全区域
- ヨシ群落の現況調査 (令和4年度)
- ヨシ群落の地点調査
- ヨシ群落保全活動の情報



表示したい内容をクリック

4種類の情報を好きなように重ね合わせて閲覧できる



(1) 公開イメージ

【階層③】ヨシ群落の地点調査

ヨシ群落情報

- ヨシ条例に基づく保全区域
- ヨシ群落の現況調査（令和4年度）
- ヨシ群落の地点調査
- ヨシ群落保全活動の情報



表示したい内容をクリック

4種類の情報を好きなように
重ね合わせて閲覧できる



(1) 公開イメージ

資料2-1

【階層④】ヨシ群落保全活動の情報

ヨシ群落情報

- ✓ ヨシ条例に基づく保全区域
- ✓ ヨシ群落の現況調査（令和4年度）
- ✓ ヨシ群落の地点調査
- ✓ ヨシ群落保全活動の情報



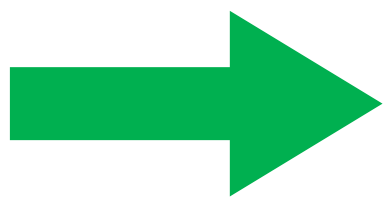
表示したい内容をクリック

4種類の情報を好きなように
重ね合わせて閲覧できる



○過去の審議会での委員からのご意見

- ・ ヨシ群落保全における目指す姿や必要なことを整理・共有することが重要。
- ・ 健全性はA B Cで判断できるようなものではなく、きめ細やかに検討すべき
- ・ 外部から判定を押し付けるのではなく、地域が自ら考え、活動の活力にできるものが必要。



琵琶湖環境科学研究センターによる

「ヨシ群落の生育状態評価指標の開発研究」

(令和8年度～令和10年度)

掲載するだけでは必要な人に届かない。
いかに活用していただくか、が重要。 そのために、以下の取組の実施を検討中。

①地域を巻き込んだ活動

- ・ヨシ群落infoのお披露目と、効果的な活用・展開のための
ワークショップを開催 (必要に応じて現場活動も含む)
- ・大学や中間支援団体と連携

地域を
巻き込んだ
展開

②積極的な周知

- ・プレスリリース、県HP、SNS等での発信
- ・各種メールマガジン、県・市町の広報誌等に掲載
- ・環境保全活動、CSR等に関心がある企業・金融機関等への周知
- ・人が集まる場(県主催イベント等)へ出向いてチラシ等を用いてPR
- ・関連する県事業のホームページにもリンクを掲載

【政策課題2】

湖岸管理によるネイチャーポジティブの促進と評価指標の開発研究

背景



開発により人工湖岸 合計40%
(人工砂浜 人工植栽 9%)

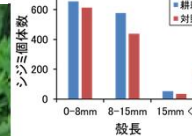
1992年
「滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例」
開発によって失われた生態系機能を取り戻すため
人工植栽、砂浜造成および保全活動に励んできた。
琵琶湖の水質は良くなってきたのに、生態系は・・・?

全国初
生態系保全
条例

ヨシ群落の面積は増えたが、時を経て、植生遷移が進み、侵略的外来植物が侵入している。

-課題-

- ・熱心に活動してきたが、納得できる“状態”になっていない。
- ・今後は、量だけでなく「質」の回復が重要!



砂浜湖岸:
シジミの
生育不良



- ・ネイチャーポジティブ-生態系評価のための生物分布情報が整理できていない。

目的

植生湖岸ヨシ、砂浜湖岸のシジミ等の保全によるネイチャーポジティブ地域経済活動を支える生態系モニタリングの見える化と、施策推進のため保全活動を含む生態系評価指標を開発する。

アウトカム

- ☆ 湖岸管理に基づく管理指標、保全技術の提言
ヨシ群落や二枚貝の再生に資する、現場実装可能な管理指標・技術を開発し、沿岸域の保全事業を支援。
- ☆ 「生物多様性みえる化マップ」による情報発信強化
県民・関係団体が活用できる視覚的ツールを通じて、保全活動・環境学習・普及啓発を促進。
- ☆ 滋賀県の関連施策への科学的裏付けの提供
琵琶湖保全再生施策、ヨシ群落保全基本計画、生物多様性しが戦略、MLGs等の推進に貢献。



研究内容

調査、実験および連携により、植生湖岸、砂浜湖岸、琵琶湖岸の生物多様性情報を収集

湖岸生態系の健全性指標の開発

サブテーマ①
ヨシ群落の健全性指標

- ・生育状況
- ・地形傾斜
- ・魚類産卵
- ・生物多様性
- ・手入れ状況

サブテーマ②
二枚貝の成長阻害要因

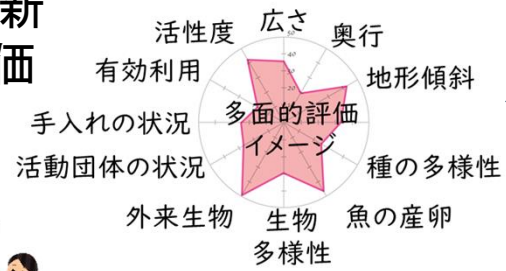
- ・水温
- ・捕食者
- ・湖底環境

サブテーマ③
生物多様性の見える化

- ・eDNA
- ・ドローン
- ・衛星データ
- ・住民観察

プロジェクト全体 ヒアリング・研究会を通して、生態系(植生・砂浜)評価指標の開発を目指す。

湖岸生態系の新たな多面的評価指標を開発



ヨシ群落保全基本計画の概要

滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例 第9条第1項の規定に基づき策定(計画期間:令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度))

環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築

ヨシ群落から生み出される自然の恵みの、地域資源としての安定的かつ持続的な供給

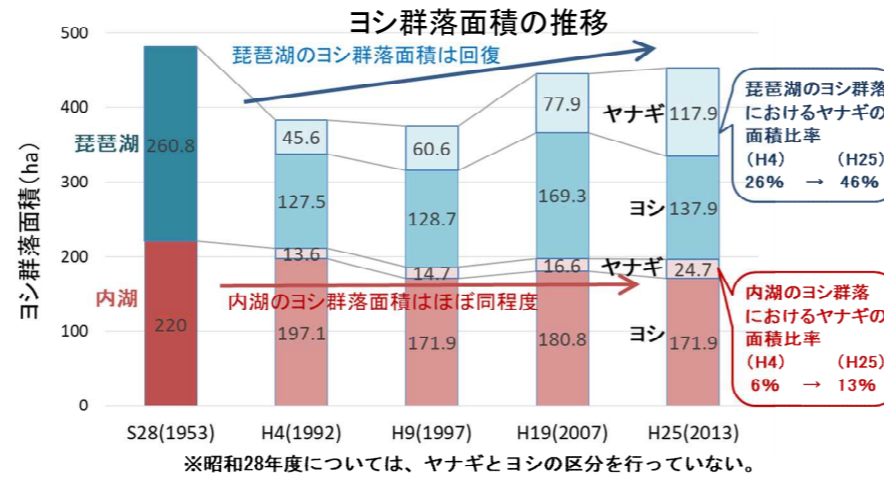
ヨシ群落を「自然と人との理想的な共生関係を育む場」ととらえ、守り、育て、活用する



第1 基本的・総合的な方針

1 現状と課題

- 琵琶湖のヨシ群落面積は、昭和28年程度に回復
260.8ha→255.8ha(平成25年)
- 内湖のヨシ群落面積は、ほぼ同程度で推移
220ha(昭和20年頃)→196.6ha(平成25年)
- ヨシ群落におけるヤナギの面積比率が増加
琵琶湖 26%(平成4年)→46%(平成25年)
内湖 6%(平成4年)→13%(平成25年)
- 侵略的外来水生植物の侵入
- 地域の保全活動の担い手不足
→企業等の保全活動団体の増加
(H29時点 45団体)



2 基本方針

- 多様な働きを持つヨシ群落を地域の特性に応じて、健全な育成を図る
- 事業者やボランティア等との関わりによる取組を広げ、地域とともに保全活動を行っていく
- 「守る・育てる・活用する」の循環の構築により、持続的な取組を進める



3 保全目標

- ヨシ群落の質的な保全・再生を目指し、ヨシ群落の健全な育成を図る
- 良好なヨシ群落が現存している場所においてはその状態を維持
 - 衰退した場所においては再生し、地域の特性に応じた維持管理や利用を推進

(1) 保護地区

生態特性により配慮し、刈取りや清掃などの適切な維持管理を実施

(2) 保全地域

県民等による保全活動が行われるヨシ群落の拡大を図る

(3) 普通地域

地域の特性に応じ維持管理を実施

4 許可制度

関係法令に基づく制度と整合を図りながら、許可制度の適正な運用

第3 環境学習および自然観察

ヨシ群落は、人間活動と琵琶湖等のかかわりについて理解するうえで、身近でふさわしい対象
ヨシ群落保全の実践活動や自然観察会を実施し、ヨシ群落の保全と活用の必要性について普及啓発
子どもがヨシ群落と関わり、その恵みを学び感じる機会を設けることは、今後の地域のヨシ群落保全活動の担い手を育てる上で重要
地域、各種団体、企業(事業所)、学校、行政などが協働し進める

第4 有効な利用

かつてあらゆる生活の場で利用されていたヨシをもう一度、生活の中で活かしていく
新たな利用・活用法は持続可能な取り組みになることが重要
ヤナギやハンノキなどの利用・活用を進めることもヨシ群落の保全につながる
ヨシやヤナギ等の長期的な利用は、CO2ネットゼロに貢献
新たな利用・活用法の情報収集、発信、技術開発や支援、調査・研究を進める

第5 執行体制

地域の信頼を得ながら、県民等と事業者および県が市町の協力も得て一体となって、「つながる・支える・知らせる」の視点から体制を発展させる

1 県等の体制

県および関係機関の各保全事業が保全目標に寄与するよう、相互の連携を深める

2 地域の体制

地域の自治会、まちづくり協議会、環境団体、河川愛護団体をはじめ各種団体、学校、事業者との協働
新たな参加者を加える、地域同士の交流を図る等、地域を支え、地域とともに活動を実施できる体制を整える

第6 その他重要事項

1 調査研究

分布状況、生育状況等を継続的に把握するとともに、生態系や文化等に関わる調査研究、協働の方法等の検討を進める
ヨシ等の植栽方法、刈取り手法、維持管理による効果の可視化、刈り取ったヨシの利用・活用について調査研究

2 普及啓発

琵琶湖博物館での展示、県民等の参加できる体験型イベントの開催、各種広報媒体を活用した普及啓発

3 SDGs(持続可能な開発目標)とMLGs(マザーレイクゴールズ)への貢献

本計画を推進することは、SDGsとMLGsのゴール・ターゲット達成にも貢献

第2 保全事業(造成事業、維持管理事業)

適切な維持管理事業を重視

ヨシ群落の再生が期待される場所での造成事業

1 造成事業

ヨシ群落の生育する環境と機能を十分理解し、地域特性に配慮し、自然の回復力をできるだけ活かした工法によりヨシ群落の再生モニタリングを行い、ヨシ群落の機能が十分発揮できているか科学的に評価

2 維持管理事業

生物の生態や地域の特性、ヨシの利活用などに応じて、ヨシ群落の多様な機能とそれを担保する環境の多様性に留意
清掃、侵略的外来水生植物の除去、ヨシの刈取り、火入れ、補植、ヤナギの伐採などの維持管理を行う
地域住民の意思を尊重しながら、事業者やボランティア等との協働で持続的に活動

